

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(60歳代男性)ありました。症状は腹痛及び血便で、感染地域は国内です。本年の累積報告数は27例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- A型肝炎の報告が2例(40歳代男性及び10歳代女性)(第38週追加報告分含む)あり、症状は全身倦怠感及び肝機能異常等です。感染地域は国内及び国外(インド)で、感染経路はいずれも経口感染です。本年の累積報告数は13例となりました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が2例(80歳代男性及び70歳代女性)(第38週追加報告分含む)ありました。本年の累積報告数は29例となりました。
- 梅毒の報告が2例(20歳代男性及び50歳代女性)ありました。感染経路はいずれも性的接触です。本年の累積報告数は51例となりました。
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け、コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見、早期治療が非常に重要です。
京都市では、平日昼間、土日及び夜間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を実施しています。詳細については、下記のホームページを御覧ください。
○京都市情報館「京都市のHIV検査について(平成29年度から検査体制を変更しました。)」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>
- 百日咳の報告が3例(10歳未満男性1例及び女性1例、10歳代男性1例)ありました。感染地域はいずれも国内です。本年の累積報告数は51例となりました。
- 風しん(検査診断例)の報告が1例(10歳代男性)あり、症状は発熱、発疹です。感染地域は国内で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は5例となりました。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.60となり、前週に比べて減少しました。しかしながら、例年に比較して約1.4倍の高い値が続いているため、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎と手洗い>

今週の本市における感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3.33(143例)となり、前週3.81(164例)に比べ、やや減少しました。しかし、本疾患は他の定点把握疾患と比べると年間を通じて報告数が多く、特に例年10月～11月頃から報告数が増加し、12月にはピークを迎えます。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 5例(肺結核 5例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 246例(肺結核 110例, その他結核 63例, 潜在性結核感染者 73例)うち喀痰塗抹陽性 59例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数27例】
- 四類:A型肝炎 2例【1月以降の累積報告数 13例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 29例】
- 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 51例】
- 五類:百日咳 3例【1月以降の累積報告数 51例】
- 五類:風しん(検査診断例) 1例【1月以降の累積報告数 5例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

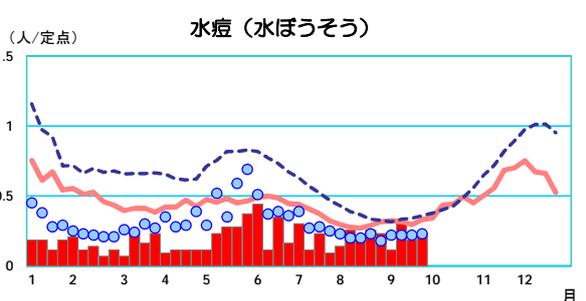
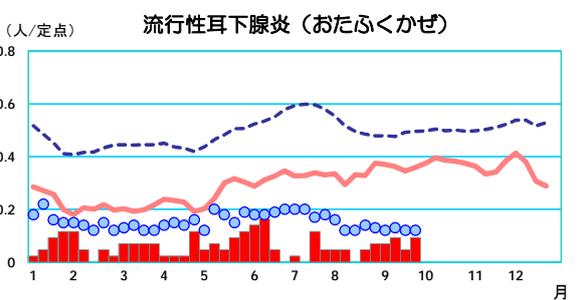
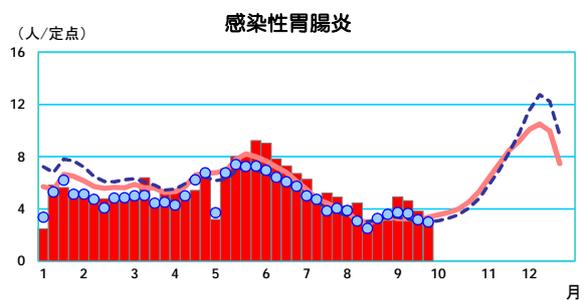
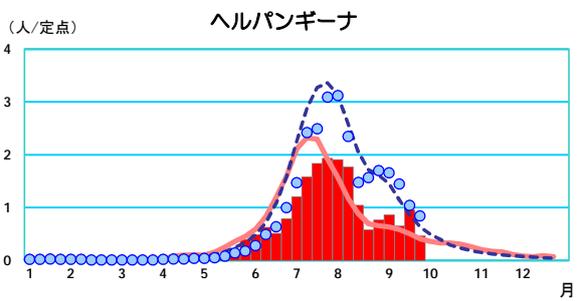
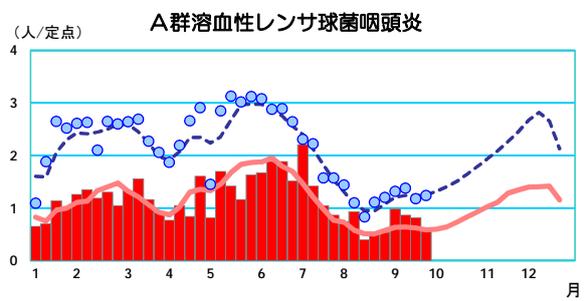
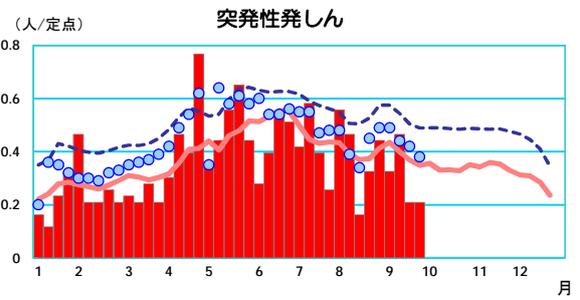
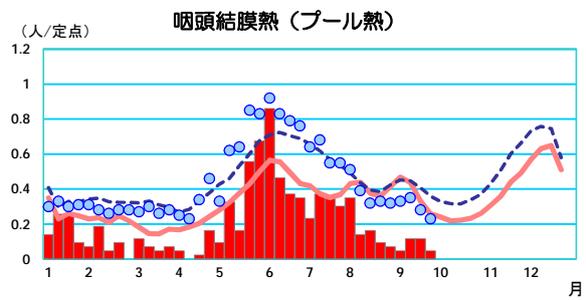
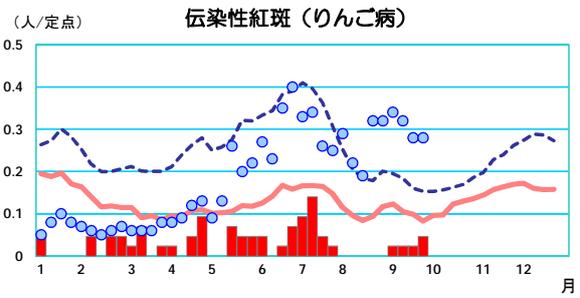
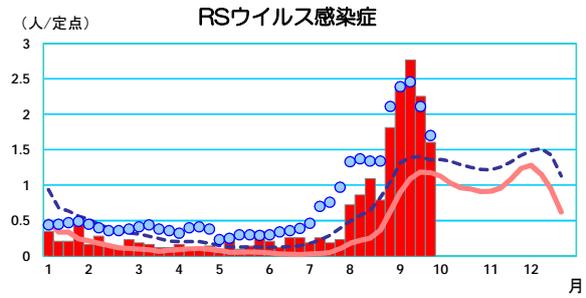
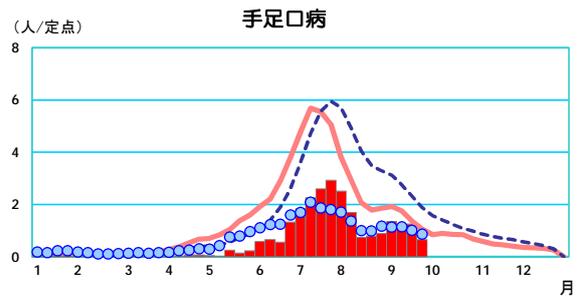
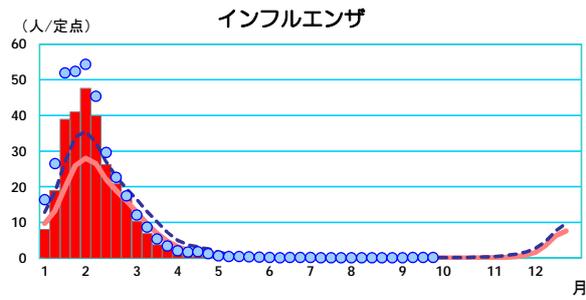
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.06	4
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.33	143
	② RSウイルス感染症	1.60	69
	③ 手足口病	0.65	28
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.56	24
	⑤ ヘルパンギーナ	0.47	20
眼科	流行性角結膜炎	1.20	12

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎と手洗い>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、平成30年10月3日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第39週(9月24日～9月30日)トピックス: < 感染性胃腸炎と手洗い >

感染性胃腸炎

今週の本市における感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3.33(143例)となり、前週3.81(164例)に比べ、やや減少しました。しかし、本疾患は他の定点把握疾患と比べると年間を通じて報告数が多く、特に例年10月～11月頃から報告数が増加し、12月にはピークを迎えます(図1)。本疾患は、細菌・ウイルス・寄生虫などの多様な病原体を原因とする感染症です。このうち冬季の報告数の増加は、ノロウイルスが主な原因と考えられています。感染経路は接触及び経口感染(食品、糞口)で、主症状は吐き気、おう吐、下痢、発熱、腹痛です。重症化することは少ないものの、体力の弱い乳幼児や高齢者等では、脱水症状を起こしたり、おう吐物が誤って気道に入り、肺炎を起こすことがあります。ノロウイルスに対してはワクチンや特効薬がないため、治療は対症療法のみとなります。予防方法は、流水と石けんによる手洗い、食品の十分な加熱(中心温度85～90度以上、90秒以上)、おう吐物の適切な処理や調理器具の消毒です(※1)。特に手洗いはインフルエンザ等の感染症予防にも有効です。来る10月15日は「世界手洗いの日」です。この機会に「正しい手洗い方法」を再確認し(図2)、流行に備えましょう。

世界手洗いの日

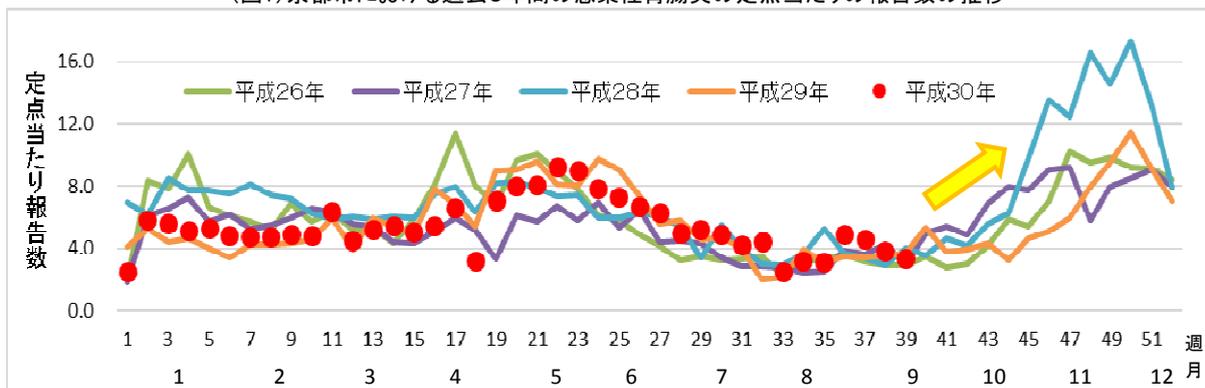
世界の子どもたちに正しい手洗いを広めるために、平成20年(2008年)に国連児童基金(以下、「ユニセフ」とする。)は、10月15日を「世界手洗いの日(Global Handwashing Day)」と定めました(※2)。この日に合わせて、ユニセフは世界各国で「石けんを使った手洗いで命を守ることができる」というメッセージを広げるための取り組みを行っています。日本では、感染性胃腸炎やインフルエンザ等の様々な感染症の予防に正しい手洗いが有効であることから、日本ユニセフ協会が主催となって、平成21年(2009年)から「世界手洗いの日」プロジェクトを実施しています。

京都市では、ノロウイルス(症状や消毒方法等)及び手洗いについてリーフレットでも詳細に紹介しています。下記のURLを御参照ください。

- 「京都市こどもの感染症リーフレット 感染性胃腸炎(ノロウイルス)」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/kansenseiityouen.pdf>
- 「京都市こどもの感染症リーフレット 手あらいの方法」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/tearai.pdf>

- (※1) ノロウイルスには消毒用エタノールは効果がなく、次亜塩素酸ナトリウムが有効です。
- (※2) 「日本ユニセフ協会 世界手洗いの日」 <https://handwashing.jp/>

(図1)京都市における過去5年間の感染性胃腸炎の定点当たりの報告数の推移



(図2)正しい手の洗い方 (※3)

- 手洗いの前に**
- 爪は短く切っておきましょう
 - 時計や指輪は外しておきましょう



1 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



2 手の甲をのぼすようにこすります。



3 指先・爪の間を念入りにこすります。



4 指の間を洗います。



5 親指と手のひらをねじり洗います。



6 手首も忘れずに洗います。



○石けんで洗い終わったら、十分に流水で洗い流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かしましょう。

○風邪をひいているときは、咳やくしゃみを手でふさいだ後や鼻をかんだ後にも手を洗いましょう。



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第39週

疾病,行政区別報告数

平成30年9月24日～平成30年9月30日

データ入手日:平成30年10月3日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																			
北	1	3	-	-	3	1	1	-	-	-	-	-	4						
上京	-	-	-	2	-	-	5	-	-	-	-	-	-						
左京	-	10	-	1	79	6	2	-	1	3	-	-	-						
中京	-	4	-	1	4	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	4	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-							
山科	2	14	-	6	-	-	1	-	3	4	1	-	4						
下京	-	-	-	-	3	-	1	-	1	-	1								
南	-	-	-	-	6	-	6	-	1	7	-								
右京	1	18	1	7	7	-	3	-	1	-	2	-	4						
伏見	-	12	-	3	26	3	5	1	1	4	-	-	-						
西京	-	4	1	4	12	-	3	1	-	1	-	-	-						
京都市計	4	69	2	24	143	10	28	2	9	20	4	-	12	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																			
北	0.14	0.75	-	-	0.75	0.25	0.25	-	-	-	-	-	4.00						
上京	-	-	-	0.67	-	-	1.67	-	-	-	-	-	-						
左京	-	2.50	-	0.25	19.75	1.50	0.50	-	0.25	0.75	-	-	-						
中京	-	1.33	-	0.33	1.33	-	-	-	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	2.00	-	-	1.50	-	0.50	-	-	-	-	-							
山科	0.29	2.80	-	1.20	-	-	0.20	-	0.60	0.80	0.20	-	4.00						
下京	-	-	-	-	1.50	-	0.50	-	0.50	-	0.50								
南	-	-	-	-	2.00	-	2.00	-	0.33	2.33	-								
右京	0.13	3.60	0.20	1.40	1.40	-	0.60	-	0.20	-	0.40	-	4.00						
伏見	-	1.71	-	0.43	3.71	0.43	0.71	0.14	0.14	0.57	-	-	-						
西京	-	0.80	0.20	0.80	2.40	-	0.60	0.20	-	0.20	-	-	-						
京都市計	0.06	1.60	0.05	0.56	3.33	0.23	0.65	0.05	0.21	0.47	0.09	-	1.20	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第39週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年9月24日～平成30年9月30日

データ入手日:平成30年10月3日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	4	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	69	16	15	21	11	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		2	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		24	-	-	1	2	4	2	5	2	4	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		143	3	17	18	15	20	12	7	6	6	3	5	9	8	14	-	-	-	-	-	-
水痘		10	-	1	-	2	2	2	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		28	-	2	8	6	2	2	4	1	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		9	-	2	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		20	-	1	7	9	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		4	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	4	3	2	-	1	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.06	-	-	-	-	0.01	-	-	0.01	-	-	0.01	-	-	-	-	-	0.01	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	1.60	0.37	0.35	0.49	0.26	0.12	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.05	-	-	-	-	0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.56	-	-	0.02	0.05	0.09	0.05	0.12	0.05	0.09	-	0.02	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		3.33	0.07	0.40	0.42	0.35	0.47	0.28	0.16	0.14	0.14	0.07	0.12	0.21	0.19	0.33	-	-	-	-	-	-
水痘		0.23	-	0.02	-	0.05	0.05	0.05	-	0.02	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.65	-	0.05	0.19	0.14	0.05	0.05	0.09	0.02	-	-	-	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.05	-	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.21	-	0.05	0.12	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.47	-	0.02	0.16	0.21	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.09	-	-	0.02	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	1.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.20	-	-	0.40	0.30	0.20	-	0.10	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第39週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年10月3日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	1	-	-	11	11	4
RSウイルス感染症	34	78	103	119	97	69
咽頭結膜熱	4	3	2	5	5	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	23	23	42	37	35	24
感染性胃腸炎	137	134	212	199	164	143
水痘	11	10	5	13	8	10
手足口病	34	38	58	47	54	28
伝染性紅斑	-	-	1	1	1	2
突発性発しん	14	19	14	20	9	9
ヘルパンギーナ	25	33	37	28	41	20
流行性耳下腺炎	2	3	3	4	2	4
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	4	5	12	11	12
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	289	345	482	496	438	327

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.01	-	-	0.16	0.16	0.06
RSウイルス感染症	0.79	1.81	2.40	2.77	2.26	1.60
咽頭結膜熱	0.09	0.07	0.05	0.12	0.12	0.05
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	0.53	0.98	0.86	0.81	0.56
感染性胃腸炎	3.19	3.12	4.93	4.63	3.81	3.33
水痘	0.26	0.23	0.12	0.30	0.19	0.23
手足口病	0.79	0.88	1.35	1.09	1.26	0.65
伝染性紅斑	-	-	0.02	0.02	0.02	0.05
突発性発しん	0.33	0.44	0.33	0.47	0.21	0.21
ヘルパンギーナ	0.58	0.77	0.86	0.65	0.95	0.47
流行性耳下腺炎	0.05	0.07	0.07	0.09	0.05	0.09
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.40	0.40	0.50	1.20	1.10	1.20
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	7.02	8.33	11.59	12.36	10.93	8.49

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。